

令和7年度 社会福祉法人あぶくま福祉会

共同生活援助事業所グループホームスクラム事業報告

1. 概 要

日中就労又は就労継続支援等のサービス利用者に対し、地域生活を営む住居において、日常生活上の相談、介護等のサービスを提供し、日常生活全般において支援を行ってきた。また、利用者の人権を尊重し地域の中で生活していくための社会性の向上と自立性を高め、地域社会の一員として生活していけるよう支援することで地域福祉の向上の増進に努めてきた。

2. 利用者の状況（令和8年3月31日現在） 定員7名 実人員男性7名（前年度6名）

市町村	男
伊達市	4名
桑折町	1名
福島市	1名
本宮市	1名
合 計	7名

年 齢	男
20歳代	1名
30歳代	2名
40歳代	
50歳代	1名
60歳代	3名
合 計	7名
平均年齢	48.4歳

3. 稼働日数および利用人数

年間開設日数365日 延べ利用人数2,160人 1日平均利用者数5.9人
（前年度 年間開設日数366日 延べ利用人数1,916人 1日平均利用者数5.2人）

4. 職員の状況

管理者1名 サービス管理責任者1名 夜勤者4名（パート2名、シルバー2名）
生活支援員・世話人各8名（パート2名 シルバー6名）

5. 支援報告

（1）生活支援の実施状況

地域に根差した福祉サービスの向上に努め、利用者の個々のニーズに応じた支援と利用者の考えを重んじた支援にあたった。共同生活の中で築くルールを守り、利用者同士協調した生活を営むよう支援した。約1カ月体験利用者を受け入れ、新たな利用者1名の正式入所につなげた。地域社会の一員であることを常に意識し、地域の町内会への所属や町内行事参加を通じて社会的自立を目指した支援を行った。

（2）健康及び安全対策

利用者の健康を守るため、日々の手洗いうがいの励行、給食支援におけるバランスの取れた献立編成で、衛生面と食育栄養の観点から健康管理を行った。有事の備え、火災、地震、水害の被害を想定し、毎月1回避難訓練を行った。各部屋に懐中電灯や履物を配備、停電時に備えた。

(3) 感染症予防対策

感染予防対策を委員会で協議、訓練し感染予防の知識の向上を図った。集団感染予防のため毎日の検温、手洗い、うがい、消毒、マスク着用を働きかけ、感染症予防に努めた。1名のコロナ罹患者発生時には、速やかな対応を行うことで周囲への感染拡大を防ぐことができた。

(4) 施設管理

新しい車輛を購入することで利用者の余暇活動、移動等に活用することとした。

6. 職員研修

グループホーム職員として、また地域社会の一員としての自覚を持ち、地域福祉サービスの一翼を担う職員の意識を高めるため研修の機会を設けてきた。

(1) 人権擁護（虐待・身体拘束防止研修）

当法人主催の人権擁護研修会に参加し、利用者への虐待や身体拘束防止、人権擁護について学んだ。

(2) 各種福祉業務研修

県障がい者虐待対応専門職チーム主催の虐待防止、身体拘束適正化研修を受講した。また、県運営適正化委員会主催による「苦情受付研修会」を受講した。

7. 地域連携

地域住民代表や民生委員による地域連携会議を開催し、施設見学と運営状況を説明し意見交換を行った。

8. 公益的取り組み状況

地域住民との積極的な交流を図るため塩野川町内会に加入し、地域の清掃活動、花壇植栽活動、町内会行事に参加した。

9. 令和7年度の主な行事

月	行 事
4月	1日誕生会
6月	1日誕生会 15日塩野川町内会花壇植栽作業参加
7月	1日誕生会
8月	1日誕生会
9月	9日苦情受付担当者研修会
10月	1日誕生会
11月	6日虐待防止・身体拘束適正化研修会
12月	25日クリスマス食事会・誕生会
1月	1日お正月食事会 17日地域連携会議
毎月	避難訓練（火災8回 地震2回 水害2回）
毎日	給食提供（朝食、夕食）、送迎車運行、部屋・浴室掃除、洗濯